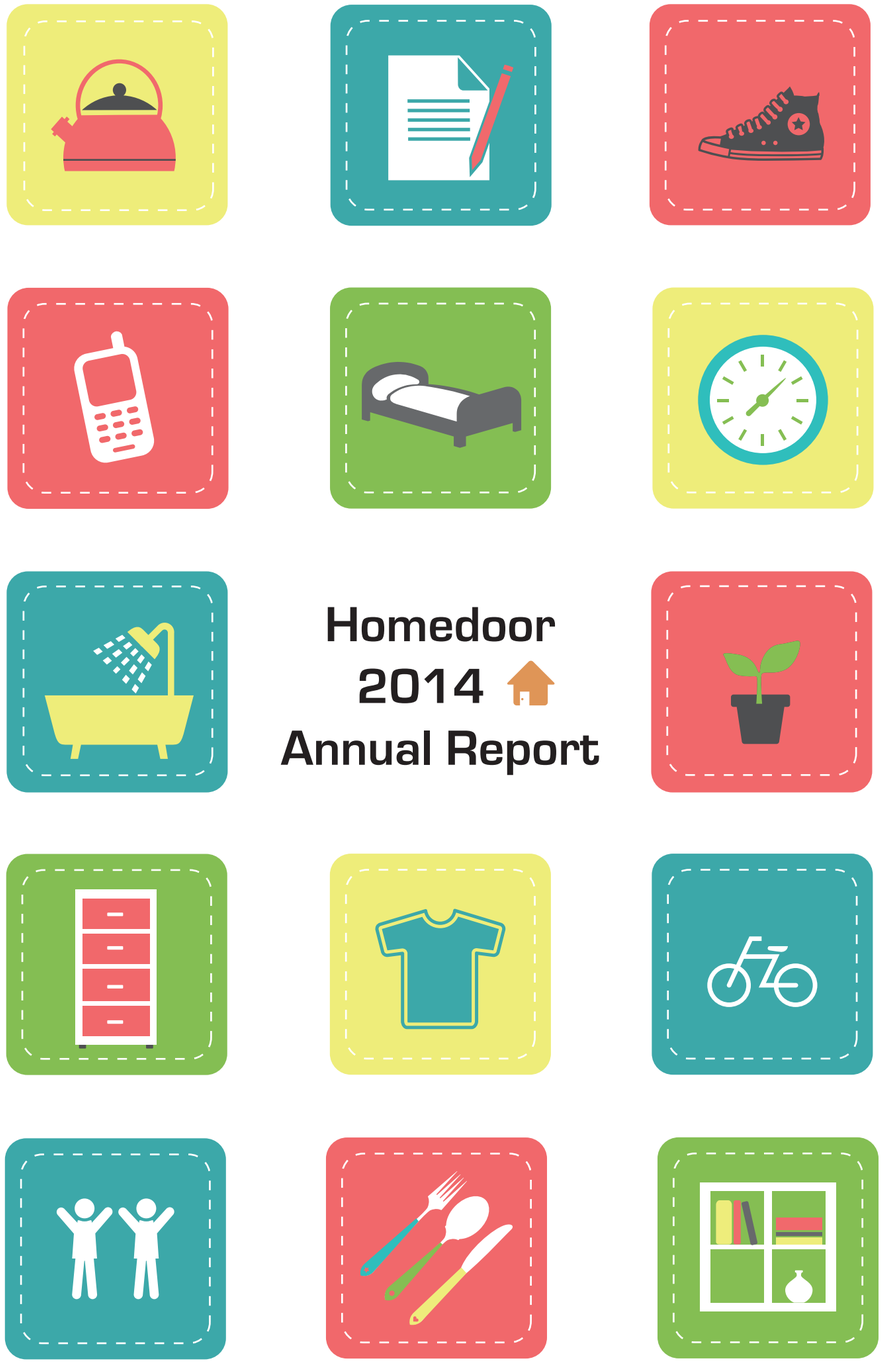
© 2015 Homedoor inc.

Homedoor
ホームレス状態を生み出さない日本に

特定非営利活動法人 Homedoor
2014 年度年次報告書　(2015 年 6 月発行)

住所：〒531-0072
大阪市北区豊崎 1-8-11
TEL：06-6147-7018
MAIL: info@homedoor.org
WEB: www.homedoor.org

@homudokun　NPO 法人 Homedoor



Homedoor 2014 Annual Report

© 2015 Homedoor inc.

Contents

03　代表あいさつ

04　2014年度の歩み

06　大切にしていること

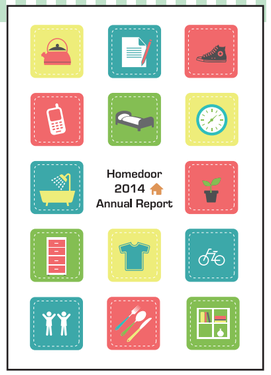
08　就労支援について

14　生活支援について

20　啓発活動について

22　会計報告

23　お世話になった皆さま



Cover Concept

ホームレスになってしまう原因は様々ですが、その多くは仕事や他者とのつながりが断絶されたことに起因します。ホームレス状態にならないためには、脱出するには、何が必要であるかを考え、その要素を表紙にしました。読み手によっておそらく見方が変わると思います。あなたにとって必要なものはなんでしょうか。ぜひ少し時間をとって考えてみてください。

About Us

2015年3月時点

団体名：特定非営利活動法人　Homedoor

役員：理事長・川口加奈　理事・松本浩美/杉浦元　監事・木原万樹子

スタッフ数：事務局5名/当事者スタッフ25名/ボランティア301名

設立：2010年4月　法人格取得：2011年10月

VISION：ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる

事業：①就労支援事業　②生活支援事業　③啓発活動

①HUBchari　ホームレスの人々の特技である自転車修理を活かしたシェアサイクル
HUBgasa　年間 1 億 3000 万本も使い捨てされるビニール傘のリメイクプロジェクト
中間的就労研究所　HUBchari など中間的就労の事例をもとによりよいあり方を探究する研究セクション

②ホムパト　路上生活者の凍死や餓死を防ぐべく、第 2 火曜日に大阪市北区にて夜回り活動を実施
＆ハウス（アンドハウス）　路上脱出に必要な設備を備えたコミュニティスペース
CHANGE　社会的孤立状態や就労意欲・自尊心の低下状態にある方を対象に、
生活支援から就労支援まで個人に合わせたプログラムを提供

③釜 Meets　炊き出しへの参加や釜ヶ崎の街歩き、ワークショップを含めたプログラム
講演・ワークショップ　年間 80 本以上、ホームレス問題を考える講演・ワークショップを実施
HC ネット事務局　「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」の事務局として、教材用 DVD や書籍を販売

「何度でもやり直せる社会の実現へ」

Homedoor設立から５年が経ちました。この5年で携わった総スタッフ数は99名といつのまにか多くの人が関わる組織へと成長を遂げました。

14歳の時に抱いた「どうして豊かな日本で、ホームレスになってしまう人がいるんだろう？」という疑問から参加した炊き出し。そこで、日本の路上で凍死や餓死をする人がいること、世間一般で言われるホームレスの人の印象である「怠けている」「自業自得だ」というものと実態は全く違うことを知りました。特に衝撃を受けたのは、自分と（当時）同世代の中高生が「ホームレスは社会のゴミだ。俺たちはゴミ掃除をしてあげているんだ。」と襲撃事件を起こしていることでした。

「同世代から同世代にホームレス問題を伝えたら、先生がいうより伝わりやすいんじゃないか？これなら自分にもできる！」そんな思いで、まずは自分の学校からと講演活動を始め、徐々に活動の輪が広がっていきました。

しかし、いくら私がもがいても、凍死や餓死をしてしまうホームレスのおっちゃんの数は変わりませんでした。なぜなら、啓発活動や炊き出しなどの対処療法的な活動では、問題の根本的な解決ができなかったからです。「今、求められているのは、ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造にすることではないか？」そんな思いで19歳の時に立ち上げたのが、Homedoorです。

2015年は、私がホームレス問題に出会って10年目という節目の年です。おっちゃんと向き合い、事業を考え、日々悩みはつきませんでした。でも不思議と、「やめたい。諦めたい。」とは思いませんでした。

「『一人、またひとり。』と、今、目の前にいる、Homedoorを頼ってくれたおっちゃんを大切にしたい。そのひとりだけのためにこの団体があってよかったって思えたらいい」その積み重ねだからだと思っています。

今、就労支援の現場や、夜回り活動「ホムパト」では、嬉しいことにHomedoorによって路上脱出を果たした元当事者らが現場リーダーを担い、おっちゃんたちのケアをしてくれています。Homedoorが提供できている仕事に、誰よりも誇りを持ってくれているのは現場で働くおっちゃんたちです。

まだまだ未熟者で、失敗したり、すべてのおっちゃんたちには対応できずに悔しい思いをしたりと、もどかしく感じることもたくさんあります。昨年も、親しかったホームレスのおっちゃんが餓死してしまうということもあり、挫折感でいっぱいでした。しかし、そこからもう一度立ち上がることができたのは、一緒に活動してきたスタッフやおっちゃんたちの頑張りと、ご寄付を頂きました皆様をはじめとする、多くの方の温かいご支援のおかげです。

これからも、Homedoorを温かく見守っていただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人Homedoor
理事長　川口 加奈

© 2015 Homedoor inc.

9のトピックで見る 2014年度、Homedoorの歩み

1 ４月　雇用創出事業、新たに開始

大阪市北区、西成区、平野区より自転車に関するマナーアップ業務を受託致しました（平野区は７月より開始）。この事業でホームレス状態にある人を含む生活困窮者３３人に就労機会を提供できました。

2 ６月　初の年次報告会を開催

大阪市北区で 2013 年度の活動報告会を実施いたしました。団体としてはじめての年次報告会でしたが、多くの方にお越しいただくことができました。合わせてHUBchari 修了生の卒業式も執り行いました。

3 １１月　「集まれ！よよよい仲間たち」初代グランプリに

アメリカ生まれのプレミアムアイスクリームブランド「BEN&JERRY’ S」主催のビジネスプランコンペにてHUBchari 事業がグランプリに選ばれました。

※BEN&JERRY’ S はアメリカにてホームレス支援をしているコモングラウンドへの支援も行っています。

4 １１月　深夜営業店舗にて広告を提供開始

深夜営業店舗＊を全国で約 160 店舗運営する企業から広告枠を無償提供していただき、各ブース内にあるＰＣを開くと、右にあるバナーが表示されるようになりました。これにより、日本全国のいわゆる「ネットカフェ難民」と呼ばれている生活困窮者が路上生活に至る前に相談をしやすくする仕組みができました。

＊インターネットカフェやファストフードなど、深夜も営業をしている店

5 １月　大阪・南部地域にて「CHANGE」継続実施

2013 年度に続き、生活保護を利用中の人を対象とした日常生活支援講座「CHANGE」を実施しました。料理教室からヨガまで幅広いテーマを取り入れました。

6 １月　中間的就労白書、完成

2013 年度より作成にとりかかっていた HUBchari 事業を通じた「中間的就労」に関する白書が完成しました。講演会などで販売予定です。

7 ３月　事務所移転、「＆（アンド）ハウス」開始

相談者の増加や多様なニーズに応えていくために事務所の移転と＆ハウスの開設を行いました。洗濯機やお昼寝スペース、簡易キッチンなどがあり、路上脱出を応援できる施設となっています。

8 ３月　Google インパクトチャレンジグランプリ受賞

テクノロジーで社会をよくするアイデアプランコンペ「Google インパクトチャレンジ」にてグランプリを受賞しました。事業は時間をかけてブラッシュアップし、リリースする予定です。

9 年間の相談者が 100 名近くに

トピック４にある深夜営業店舗でのバナー広告掲載やインターネット検索エンジンの NPO 向け無償サービスを利用した広告枠を見て、相談者が日々Homedoor にやってこられるようになりました。

© 2015 Homedoor inc.

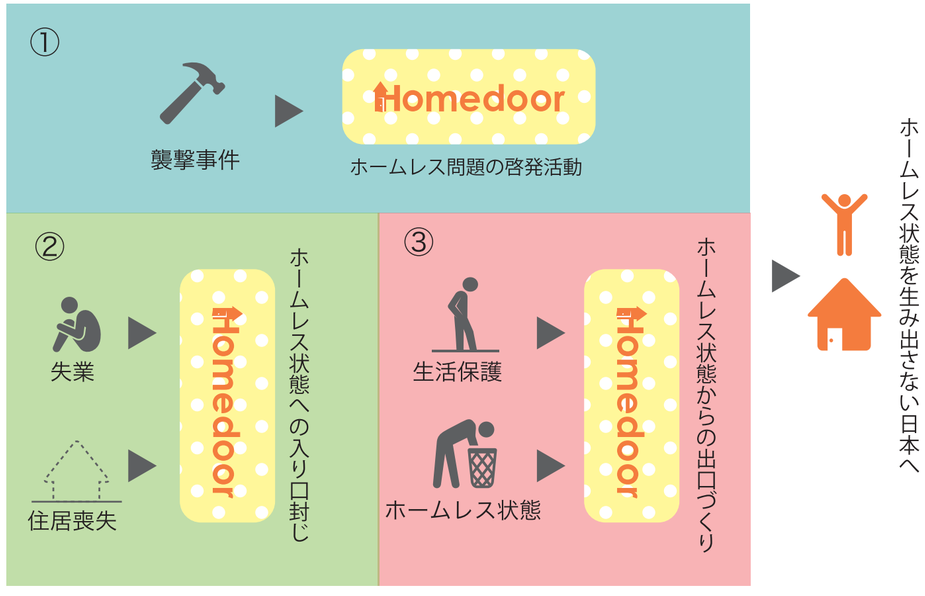
Homedoor が大切　にしていること

「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる」という揺るぎないビジョン

ホームレス状態になりたくないと望む人が、路上で生活する日が来ないように。
ホームレス状態から脱出したいと願う人が、温かい布団で寝ることができるように。

Homedoor が目指している社会は、とてもシンプルです。小さな失敗も大きな過ちも誰にでも起こりうることです。本人がやり直したいと望むのなら、どんな状況からでも新たな一歩を踏み出すことができる、そんなすべての人にとって優しい社会をつくっていきたいと考えています。

そのために「ホームレス状態への入り口封じ」を行い、お金が底をつき、家も頼れる人もなくなりいよいよ路上で生活しなければならないという状況を未然に防ぎます。またホームレス状態に既に陥ってしまった人向けに、「ホームレス状態からの出口づくり」にも取り組んでいます。そして、間違った知識や先入観から若年層が襲撃事件を起こしてしまわないように「ホームレス問題の啓発活動」を行っています。この３本の柱をしっかりと築き、「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくり」を目指します。



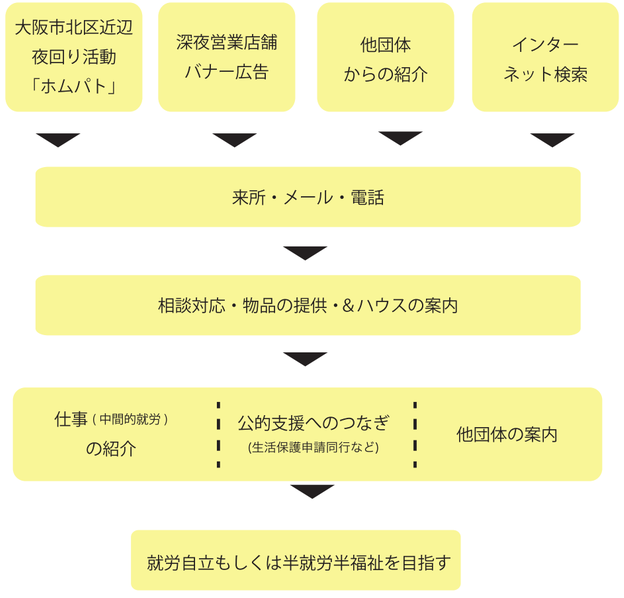
当事者が主体となれる居場所づくりを

事業を新たにはじめる時、困難にぶち当たった時、まず Homedoor が行うことは当事者に相談をするということです。団体の運営の鍵は彼らが握っていると言っても過言ではありません。当事者の思う「こんなことができたらいいな」「あんなものがあればいいな」という物事を形にしていくのが Homedoor のするべきこと、したいことです。

巻き込む人を増やす

ホームレス支援、生活困窮者支援というものは景気や社会情勢に応じて求められているものが刻々と変化していきます。ひとつのことをどっしり構えて細く長くやっていくことも大切ですが、それだけでは「ホームレス状態を生み出さない社会構造」は生み出せません。様々なステークホルダーを巻き込みながら、「今何が社会で求められているか」をともに考えることをとても大切にしています。シェアサイクルとホームレス支援を掛け合わせた HUBchari がその好例と言えます。また他の問題も同時解決に導くという構造をつくることによって、支援される立場になることが多かったホームレス状態の人が社会を変える立場にまわることができることも特徴のひとつです。

セーフティネットからこぼれ落ちる前に



事務所付近の大阪市北区で野宿している人向けには夜回りを、深夜営業店舗などで生活をしている人には PC のバナー広告を、といった風に制度や Homedoor のことを知ってもらうために、様々な経路を用意しています。

2014 年度の成果として、深夜営業店舗のバナー広告掲載やインターネット検索の SEO 対策の充実は大変成果があったと言えます。

© 2015 Homedoor inc.

HUBchariを卒業し、安定就労を果たしたスタッフが工場内で勤務する様子

徐々に広がりが出始めた、就労支援事業。

選択できるということ

2014年度の大きな前進のひとつに就労支援に幅がでてきたことが挙げられます。行政から自転車マナーアップに関する業務を受託したり、民間企業から業務を任せていただけたりできるようになりました。これまで中間的就労支援の場は、HUBchariが中心でしたが、就労ができる場所や中間的就労を経験できる場所が一気に増え始めた一年でした。

職種が増えるということは、当事者にとって選択肢が広がるということです。相談にやって来る人の中には障害を持っているケースも少なくなく、得手不得手がはっきりと分かれていることが多いです。これまではHUBchariの仕事をすることが難しい人に提供できる仕事は少なかったですが、職種が増えたことにより、自身に合った仕事を見極めやすくなりました。ひとつめの仕事で成果を出せなくても、次があります。ドロップアウトせずに、やり直すことができます。まさに団体の理念にも通ずることがここに体現されています。

就労にこだわる理由

生活サイクルを立て直す際、生活支援のみではなく、就労支援も合わせて行うのには理由があります。仕事をするということは、お金を稼ぐという側面だけでなく、社会との接点を保つという重要な役割があるからです。これまで様々な背景を持つ生活保護利用者と関わってきましたが、実に多くの人が「路上で生活している時よりお金に余裕はあるけど、仕事はブランクがあってなかなか見つからないし、他にすることがなくて毎日つまらない」とつぶやく姿を見てきました。そんな当事者からの声を受けてHUBchariが始まり、豊かな表情をみせるようになった人たちを目の当たりにしてきたからこそ、就労支援を行うことをこれからも大切にしていきたいと考えています。

本人の意志を最大限尊重する

相談者が来所した翌日からHomedoorで就労体験をするということは珍しいことではありません。状況を見ながらゆっくりと少しずつ対話をし適切なステップについて検討していくべきタイプの人と、相談時からしっかりとした就労への意志を持ち就労体験できる場所を提供することによりひとりでは解決できないジレンマがなくなっていくタイプの人とでは対応も変わってきます。聞き取りシートに則りながら、これまでの状況を伺い稼働能力があり本人が望むのであれば、研修を実施し現場に入ってもらいます。

Homedoorでは先輩スタッフや現場リーダーによるサポートがあるため、久しぶりの仕事への戸惑いが軽減されます。かつて自身も同じような思いをしてきた人たちだからこそ、手に取るように分かることがあります。ピアサポートの体制をとても大切にしています。

試行錯誤を繰り返した一年

行政からの委託を受け2014年4月から自転車マナーアップに関する業務を受託することになり、事務局は初めてのことばかりで戸惑いました。対象者は誰にするのか、トラブルにはどう対応するのか、スタッフが来ない時の穴埋めは誰がするのか。課題は尽きませんでした。ひとつずつ現場で働く当事者スタッフと話し合い、ルールを定めていきました。

お世話になっている他団体などへも求人を紹介し、合計33名がこの業務に従事しました。現場リーダーにはHUBchari卒業生を採用し、現場と事務局の距離をできるだけ近く保てるよう工夫をしました。どうすれば新しく働くスタッフが、ドロップアウトしないのかを一緒に考えました。その結果、半年間の契約満了を迎えた人は63%、持病の悪化による早期退職が12%、次の就労先に繋がったことによる早期退職が6%、その他が19%という結果となりました。

また本業務を通じて、本人の意志により生活保護などの公的支援を利用せず居宅生活へ移行を果たす人も出てきました。この一年は困難も多くありましたが、少しずつ就労支援体制に広がりが出てきたことを実感できた年でもありました。

2014年度の経験を活かし、今後も現場との距離は近いままに、より多くの人に就労への道しるべを提供していきます。

© 2015 Homedoor inc.

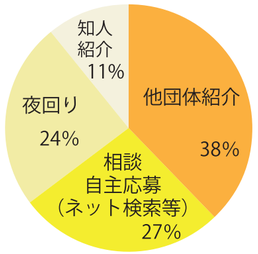
就労支援事業

就労支援事業で働くようになった人たちの多くは他団体からの紹介です。なかなか就労移行できない人たちをどうにかできないかと相談を受け、働いてもらうケースが 2014 年度は 3 割以上となりました。仕事を探したけれども就労先が見つからないからと自主的に相談に来るケースも少なくありませんでした。また夜回りで Homedoor を知り、実際に仕事をされた方も 2014 度から大幅に増えました。既に働いている人が友人を連れてくる知人紹介の回数も増えてきたことは、当事者が友だちに勧めたい仕事であるという証です。

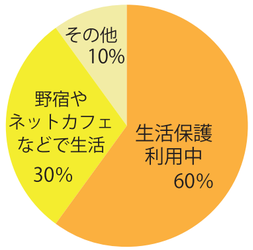
働くことになった人の 6 割が生活保護制度を利用している人でした。この制度を利用している人は住居があり、生活は安定しています。しかし仕事を探そうにも「生活保護受給者は怠けている」といった誤った認識を持っている雇用者も少なくなく、一般就労に結びつくことは難しい状況です。一度就労の機会を持つことによって履歴書の仕事をしていない空白期間が埋まり、次の仕事を見つけやすくなります。

一方で 3 割の生活保護制度を利用せずに野宿生活を続けている人にも、今年度新たに就労の場を提供することができました。なかには実に 12 年ぶりに働いたという人もいます。「仕事はしたいけれど住所がない」「携帯電話を持っていないから仕事の連絡がとれない」「本当はアパートで生活したいけど、親族の扶養照会＊があるから生活保護は受けたくない」といった一人では解決できないジレンマを抱えている人たちに寄り添ってきました。

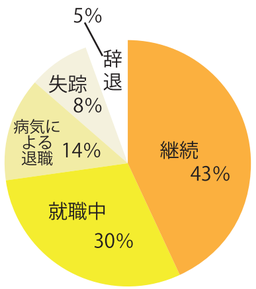
この就労プログラムに参加できるのは原則 6 ヶ月です。必ずしも 6 ヶ月で卒業する必要はありませんが、期限を決めていく中で就労への意識を高めていってもらいます。もう少し時間をかけて規則正しい時間に起きるなど生活リズムを整える必要がある人たちや就職活動を続けたいと考えている人たちには継続して就労の機会を提供しています。



働くに至った経緯



生活状況

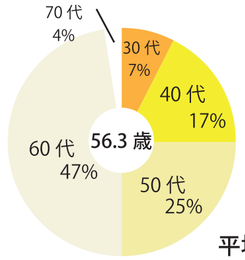


6 ヶ月後の状態

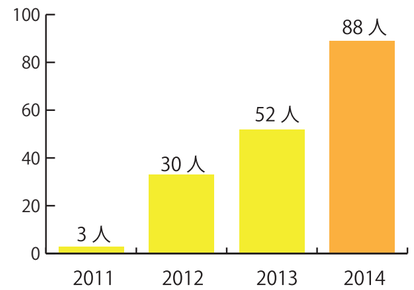
＊扶養照会…生活保護を申請した際、親族に扶養できる能力があるかどうかを連絡して確認すること

平均年齢は 56.3 歳と 2013 度の 54.4 歳より 1.8 歳上昇しました。また過半数を 60 歳以上が占める結果となり、シニア層の就職活動がいかに困難であるかが明らかとなりました。

HUBchari 以外にも就労の場を増やしたことによって、より多くの人に機会を提供でき、スタッフ数は累計 88 人となりました。HUBchari はお金の計算や接客を伴うため、苦手意識を持つ人もいましたが、8,9 頁にある自転車マナーアップ業務は二人一組で行なえます。計算をする必要もないため、就労への苦手意識が強い人でも抵抗なく業務に従事することができていました。



平均年齢
（2015 年 3 月時点）



就労支援事業のスタッフ数（累計）

Real voice!

夜回りで会い、 相談に来てスタッフになった N さんの場合

ある日、会社に行くと会社ビルの前には人だかりができていました。会社が倒産してしまったんです。1 ヶ月分の給料は払ってもらえず、10 万円の貯金を切り崩しての生活がはじまりました。そのとき住んでいた家は社宅だったので、仕事も家も同時に失いました。路上には出たくないと安い宿やネットカフェで夜を過ごしましたが、あっという間に 10 万円は底をつき、路上生活をせざるをえなくなりました。

仕事を探そうにも家がなく、移動するにも荷物が多くて一苦労。慣れない路上生活に疲れ果てていたとき、Homedoor の夜回りに出会いました。十分に体は動くし、あと数年がんばれば年金がもらえることがわかっていたので、生活保護は利用したいと思っていませんでした。

そんな自分の希望を聞き入れてもらい、仕事をもらって少しずつ貯金して、5 ヶ月。いろいろとサポートしてもらったおかげでアパートを借りることができました。自分だけではどうすることもできない状況だったので本当に助かりました。2015 年度からは Homedoor の現場リーダーとしてフルタイムで働いています。

58 歳　男性

© 2015 Homedoor inc.

人とのつながりを育める就労支援を

定期的にスタッフや相談者、ボランティア、それぞれが関わることのできるきっかけをつくるイベントを実施しています。

大切にしているのは季節性を持たすこと、参加する当事者の特技を活かした内容にすること。このふたつです。

桜ノ宮でお花見を楽しみました。満開の桜の下で事務局とボランティアYさんの手作りごはんに舌鼓を打ちました。(上)

満腹になったあとの調理実習集合写真。この日の献立はさばの味噌煮や肉じゃがなど。(右)

HUBchari卒業後も自分たちが大切にしてきた自転車をメンテナンスしに訪れてくれるスタッフたち。(左)

天王寺動物園で動物とふれあいました。なかには60年生きてきてはじめて動物園に来たと喜んでいる人も。童心に帰ることのできた1日でした。(下)

長く板前をやっていた人に調理実習の講師をお願いしたり、かつてたこ焼き屋を営んでいた人にたこ焼きの作り方をみんなで教わったり。

いろんな過去を持つ人たちとだからこそ、様々な経験をすることができます。

10年以上、自宅にひきこもりがちだったYさん。はじめて会った時はとても物静かでした。徐々に会話をもつことができるようになり、今では表情もとても柔らかくなりました。(左)

HUBchariなどのプログラムを終え卒業式を実施。Yさんはオフィスワークの仕事に就くことができました。(右下)

ひとつひとつのイベントは、事務局だけでつくるのではなく関わる人みんなで一緒に決めていくのもHomedoorの特徴のひとつです。

事務所にて、みんなでジェンガを楽しむ様子。何気ない小さなふれあいを大切にしています。(左)

淀川の河川敷で、夕涼みと花火を行いました。「花火なんて学生の時彼女とやった以来」と過去の思い出を教えてくれる人もいました。(右下)

2014年度のイベント

- 自然を愛でるお花見
- 遠足・動物園
- 川辺で夕涼み・花火
- 男の料理教室
- みんなで楽しむ音楽会
- たこ焼きを囲む新年会
- バレンタインパーティ　など

© 2015 Homedoor inc.

夜回りで Homedoor と出会い、Homedoor で働き貯金をためて、居宅生活へ移行した方のお宅でささやかなお祝いを。

じっくりと時間をかけて対話する。

心のバリアを柔らかくする

夜回り活動「ホムパト」では大阪市北区を中心に路上で生活を余儀なくされている人たちへ、声掛けをして回っています。路上生活が長引くほどに人と関わる時間が減ってしまい、人間不信になってしまうという人は少なくありません。そのため初めて会った日には渡そうとしたお弁当を受け取ってもらえないことや追い返されてしまうこともしばしばあります。

しかし、回数を重ねていくと少しずつ距離が縮まっていくのを感じます。お弁当はもらってくれなくてもお菓子だけもらってくれたり、前回は話しかけても返答がなかったけれど今回は応じてくれたりと少しずつ変化が目に見えるようになります。

夜回りそのものは誰かを助けるための行為ではないと考えています。関係性を少しずつつくっていき、一緒に悩んだりお話をしたりするなかで、固く張り巡らされていたバリアを柔らかくしていく、そんな場として捉えても良いのではないでしょうか。

一歩踏み出すための後押しを

少しずつ信頼関係ができていく中で、「実はな…」と胸の内を明かしてくれるようになる人も出てきました。「下着、もう何年も変えてないねん」「年金だけやと生活が苦しいねん、わしでもできる仕事ないかな」などの話をしてくれる人も出てきました。自分の思いを発してくれるようになれば、アシストできる部分は全力で応援します。

Ｈｏｍｅｄｏｏｒの基本姿勢として、自分の生活を前向きに考えようとしている人たちへの応援には時間を惜しみません。自分の力だけではどうすることもできない状況にある人たちが、次の一歩を踏み出すために活動し続けます。

相談しやすい体制づくり

これまでホームレス支援の多くは夜回りを行い、支援対象者との関係性を構築してきました。しかし、もはやそれでは日本全体に潜在するホームレス状態の人をカバーすることは不可能となってきました。というもの、ここ十年ほどで派遣労働が台頭し、短期雇用される人が増えてきました。また仕事にあぶれたとしても、インターネット環境があれば、1日だけの日払い可能な派遣労働にありつくことができます。そのため、家がない状態でも仕事をし、インターネットカフェを含む深夜営業店舗などで生活を続けているうちに、いつのまにかセーフティネットから落ちてしまうということが若年層を中心に増えてきています。

厚生労働省の定義によるとインターネットカフェを生活の拠点としている人は「ホームレス」に含まれません。そして本人たちは仕事をしているのだから自分はホームレスではない思ってしまっています。つまり、統計データからも漏れ、本人も社会的に危ういことへの自覚を持たない状況が生まれてしまっているのです。仕事も見つからなくなり、いよいよ路上にという状況になって初めて自分が置かれている状況に気づき行政や支援団体へ連絡をとる人が後を絶ちません。

このままでは「見えざるホームレス」がどんどん増えてしまいます。そこで、深夜営業店舗を運営されている企業さまにご協力をあおぎ、日本全国160店舗にバナー広告を掲載してもらい、「生活にお困りの方へ」というページへの誘導を2014年12月に開始しました。

相談窓口として機能することはもちろんのこと、「自分の状況に当てはまるものがひとつでもあれば相談してください」と記載することによって、自分が危うい状況に置かれているかどうかを理解してもらうこともねらいです。

ニーズに応えたい

夜回りやインターネット経由で相談にやってくる人が増加していく中、2014年度新たに始めた活動のひとつに、&ハウス(アンドハウス)があります。

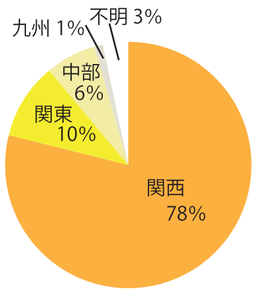
来所された人たちへヒアリングを行い、当事者が持つニーズを調査しました。「コインランドリー代を節約したい、」「栄養のあるご飯を食べたい」「少しでもゆっくり寝たい」。そんな声があがってきました。少しでもその声に応えていくべく、複合的な機能を持つ施設をつくりました。詳しくは18、19頁をご参照ください。

「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくるため」、小さなニーズをひとりずつ洗い出していき、これからも当事者が持つ前向きな気持ちに寄り添い続けていきます。

© 2015 Homedoor inc.

生活支援事業

2014 年度は相談者が困った時に Homedoor や制度について簡単に見つけられるように、大手検索エンジン 2 社から広告枠の無償提供を受けました。インターネット検索の SEO 対策などを積極的に行いしました。また全国初となる深夜営業店舗に生活困窮者向けのバナー広告を無償で設置させていただきました。これまでの支援にない新たな取り組みを試験的に開始しました。



相談者の住所もしくは寝床
（相談時）

その結果、日本各地に点在するホームレス状態の人を含む困窮者が Homedoor へ相談をしてくるようになりました。また相談者の年齢にもバラツキがでてくるようになりました。インターネットを経由した相談者は夜回りと比べ年齢層が低いということも分かりました。また相談者が増加してくるに従って、過去に相談をしてきた人の友人が話を聞いて Homedoor へ相談にやってくるというケースも目立つようになってきました。相談者全体の平均年齢は 47.7 歳であり、相談者は 9 割以上が男性でした。

また 2013 年度からはじめた大阪市北区を範囲とする夜回り（ホムパト）を 2014 年度も継続実施致しました。定期開催（毎月第 2 火曜日、冬季は第 2・第 4 火曜日）が 16 回、臨時開催が 2 回、終電後の深夜開催が 2 回の合計 20 回となりました。ご寄付のお米などを活用したお弁当やお茶などの飲食物、カミソリやタオルなどの日用品に加えてホムパトカードという団体情報やお仕事情報などを記載し、手書きメッセージを添えたものを渡します。各回 60 人〜80 人程度の方にお会いしました。

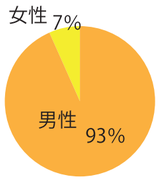
相談者には相談に至るまでの経緯を聞き取りシートに沿って聞いていき、本人の同意のもと、必要に応じて生活保護や自立支援センターなどの公的な支援へ繋ぎます。金銭的に困窮している人であり、「体はまだ十分動く」「公的な支援には頼りたくない」という人には連携企業や他団体を紹介したり、Homedoor で就労場所の提供を行なったりします。このような支援を経て本人が望む自分らしい生き方を体現できる人もいる一方で、支援途中に連絡がつかず消息が分からなくなる人も少なくありませんでした。インターネットを経由した相談者はメールや電話で連絡をしてくるため、メールへの返事が来なかったり相手の携帯電話が利用料金滞納などにより使えなくなったりして、消息不明になるという事態が頻発しました。2015 年度は相談者が 2 回めの連絡をより取りやすく仕組みを作る必要があるという課題が明らかになりました。

相談者の年齢層別 Homedoor を知ったきっかけ

単位：人

	ネット経由	夜回り	メディア	他団体紹介	知人紹介	不明	計
20 代前半	2				1	1	4
20 代後半	1				1		2
30 代前半	6		1	1	1		9
30 代後半	5	2	1			1	9
40 代前半	6	1			1		8
40 代後半	3	3		1			7
50 代前半	4	4			1		9
50 代後半	1	4		1	1		7
60 代前半		4		1	3		9
60 代後半	1	3	1		3		6
70 代前半		3			1		3
70 代後半		1					1
不明	9	4		1		2	16
計	38	27	3	5	13	4	90

平均年齢
47.7 歳



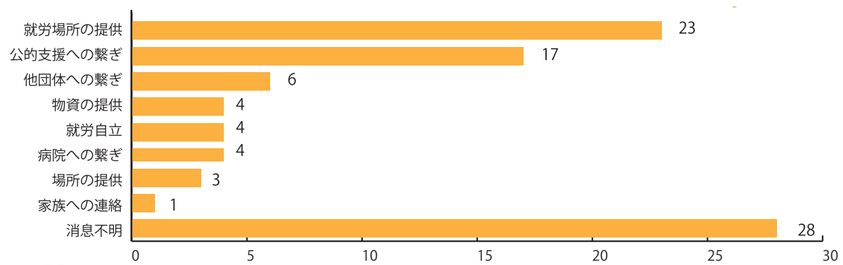
相談者の性別
（性自認による）

相談者の年齢層別 Homedoor への相談方法

単位：人

	メール	電話	知人	来所	計
20 代前半	2	1	1		4
20 代後半		1		1	2
30 代前半		2		8	10
30 代後半				8	8
40 代前半	2	1		5	8
40 代後半	1	1		5	7
50 代前半		1		8	9
50 代後半				7	7
60 代前半		1	1	7	9
60 代後半		1	1	4	6
70 代前半				3	3
70 代後半				1	1
不明	7	9			16
計	12	18	3	57	90

※知人は本人ではなく知人が Homedoor に相談をしてきたケースを指す



相談後の対応　単位：人

© 2015 Homedoor inc.

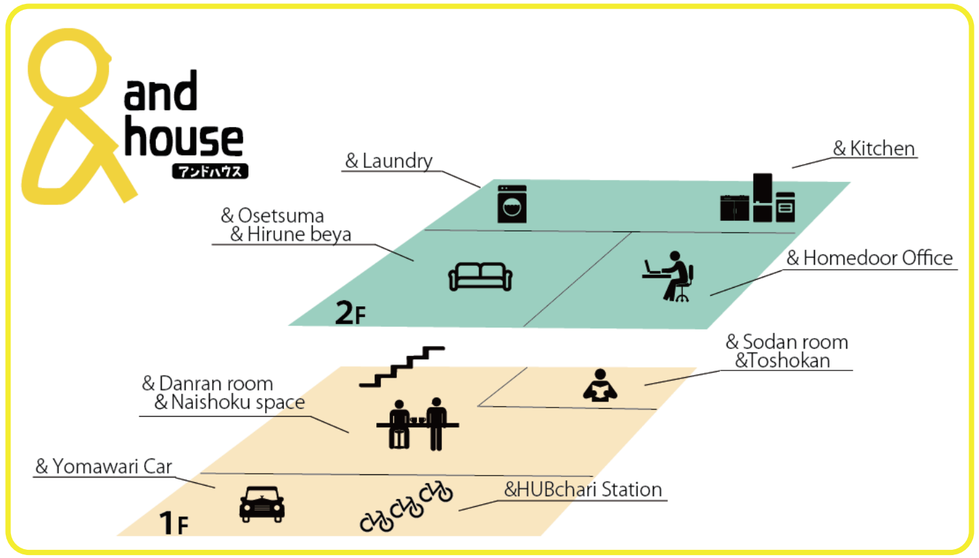
これまで Homedoor ではホームレス状態の人を含む生活困窮者へ生活相談に乗ってきました。公的支援を利用しないという考えの人には、働いたお金で宿に泊まれるよう、就労の機会を提供してきました。しかし、定住できる場所がない状態での就労は精神、肉体、金銭、それぞれに大きな負荷がかかります。

自炊が出来ないので食費がかさみ、不安定な状況で十分な睡眠が取れない。
コインランドリーで洗濯をし、仕事は不安定な状態。
人との繋がりが希薄になりがちで話す相手がおらず、趣味を楽しむ余裕や場所がない。

そんな状況を改善できればと、路上生活を脱出するためにあると便利なものを当事者と一緒に考えてつくった「&ハウス（アンドハウス）」を大阪市北区にて運営しはじめました。1 階の木製の棚は当事者と事務局で一緒に作り上げ、利用のルールはみんなで一緒に考えました。ここではそれぞれが思い思いに自由な時間を過ごすことができます。相談者が来たら、働いている当事者スタッフが「ラーメン食べる？」と寄付物品を活用し声かけをしてくれます。それぞれがそれぞれを思いあって、&ハウスは成り立っています。

昔ながらの街並が残る北区豊崎の小さな一画にあるこの場所は Homedoor の新しい挑戦の象徴です。シェルターを今後整備できるようケーススタディを重ねていきます。

提供！



「&ハウス」に込めた想い

大変な状況下にあったとしても、ほっと一息「安堵」できるような場所でありたい。そんな願いを込めて「&ハウス」と名付けました。記号のアンドは「～と」「～しながら」「そして」など未来を肯定的にとらえる意味が含まれています。人が足を抱えて座り、少し上を向いている様子を & マークに見立ててロゴに取り入れています。これは Homedoor の考え方を表すものでもあります。ひとりでは状況を変えたいと思ってもなかなか変えることが出来ない、でも前を向いていたいという意志はある。そんな人に&ハウスを含め Homedoor のトビラを叩いてもらいたいと願っています。

© 2015 Homedoor inc.

知る機会を、すべての人に。

釜ヶ崎での街歩き・ワークショップの様子

「知らない」のは仕方がない

ホームレス問題をより多くの人に知ってもらいたいのには理由があります。親や教師が正しい知識を持ち次の世代にしっかりと伝えていくこと、襲撃事件を起こす若年層をゼロにするということ、この二点です。

知る機会がなければ、正しくない情報をそのまま真実だと捉えてしまうこともあるでしょう。ならば知る機会をもっと作れば良いのです。学生向けには学校で、社会人向けには会社や所属する組織で、ホームレス問題を正しく知る時間を設けることが大切なのです。

「勘違いしていた」「自分と同じ」

２０１４年度、計９９回の講演やワークショップを実施する機会を頂戴しました。ホームレス問題や日本の貧困問題についてのレクチャーを行なったところ、多くの人から「路上で生活している人は怠けているだけだと思っていた」「ホームレス問題について間違った知識を持っていた」「自分もいつホームレスになるかわからないと思った」といった回答が寄せられました。自身の生活とホームレス問題は無関係ではないことを、知ってもらうことができました。

講演などをきっかけに夜回りへの参加やボランティアへの登録をする人が増え、ホームレス支援に携わる人を増やす仕組みづくりもできつつあります。

若い世代から伝えること

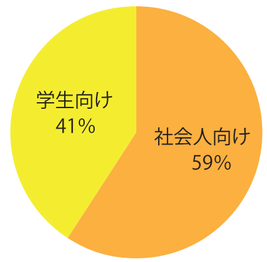
Ｈｏｍｅｄｏｏｒは、中心スタッフの平均年齢が２５歳と非常に若いことも大きな特徴のひとつです。若い世代が中心になって啓蒙していくことで、これまで自分にはホームレス問題は無関係だと思っていた層にも影響をもたらすことができると考えています。

夜回りや炊き出しといったこれまで行われてきた支援方法のみに捉われず、新しい選択肢を提示していくスタイルはまだまだ珍しい状態です。この特異性からメディアにも取り上げていただける機会も年間３０回以上と大変ありがたいことに非常に多かったです。だからこそ、団体の方針や事業内容、ホームレス問題についてを広く正しく伝えていく必要があります。「若い世代」が「ホームレス問題」について取り組むことそのものが大きな意味を含んでいると考えています。

ホームレス経験者とともに

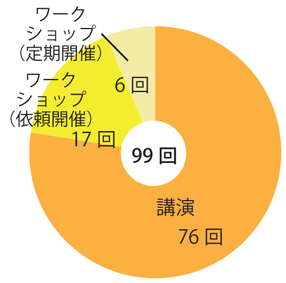
講演やワークショップは状況に応じて、ホームレス経験者とともに行ないます。経験した人の声というものは説得力があり、聞いている人に最も響くものです。自分のホームレス経験や襲撃された体験を通じて、ホームレス問題を正しく知ってほしいと願う当事者経験者が内部にいてくれることは大変心強く、事務局も学ぶことが多いです。

啓発活動



対象者別実施内訳

※ワークショップには釜ヶ崎の街歩きなどを行なう釜 Meets を含みます



2014 年度 講演・ワークショップ回数

2014 年度の受賞

BEN&JERRY'S 主催
「集まれ！よよよい仲間たち」
初代日本グランプリ

グーグル株式会社主催
「Google インパクトチャレンジ」
グランプリ

メディア

毎日新聞　「憲法　私はこう思う」
読売新聞　「WAKAMONO」
産経新聞　「貸し自転車サービス 頑張って」
NHK ラジオ　「ラジオ深夜便」
BRUTUS　「つぎのひと。」　他多数

Real voice!

一緒に講演をしてくれているスタッフから

ホームレス生活を経験して、悲喜こもごも、いろんなことがありました。時に人の優しさに触れ、時に襲撃に遭い怖い思いをしました。

自分がなってみて思うのは、ホームレスになるということは特別なことではないということ。同じ人間として「生きている」ってことを知ってほしいんです。

そう思っているから自分の経験を皆さんの前でお話させてもらっています。こういう機会があることはとてもいいことだと思います。これからも機会があればどんどん参加していきたいです。

N さん（58 歳）

昔、警備の仕事をしていたとき、お店にホームレスの人が入ってきました。その時はそのひとのことを疎ましい存在だと思っていました。

けど、いざ自分がホームレスになった時、あの時思ったことを後悔しました。疎ましい存在ではなく、誰でもなる可能性があることを身をもって学びました。

だから世間の人が持つ偏見をなくしていきたいと思い、啓発活動に参加しています。自分の経験が少しでも役に立てば、嬉しいです。

S さん（58 歳）

© 2015 Homedoor inc.

活動計算書　（2014 年 4 月 1 日〜2015 年 3 月 31 日）

単位：円

経常収益

受取会費・寄付金	5,866,723
受取助成金	5,936,000
受取補助金	6,667,000
事業収益（就労支援）	18,069,829
事業収益（生活支援）	809,920
事業収益（啓発活動）	3,231,794
雑収入	111,641
利息	2,076
経常収益　計	40,694,983

経常費用

事業費	
人件費	16,277,517
その他経費	3,915,979
管理費	
人件費	7,228,564
その他経費	2,877,813
経常費用　計	30,299,873
法人税、住民税及び事業税	430,700
当期正味財産増減額	9,964,410
前期繰越正味財産額	8,914,693
次期繰越正味財産額	18,879,103

貸借対照表　（2015 年 3 月 31 日現在）

単位：円

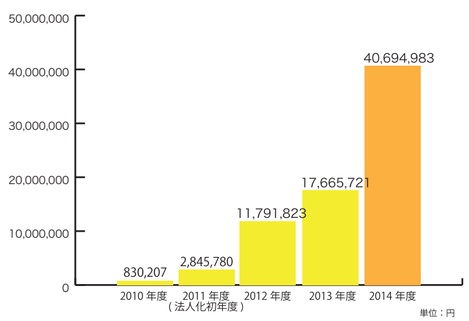
資産の部

流動資産	
現金・預金	8,210,029
未収入金	15,558,147
預け金	78,500
前渡金	30,400
固定資産	
什器 備品	51,863
保証金	106,000

負債・正味財産の部

流動負債	
未払金	2,128,622
前受金	1,500,000
短期借入金	1,473,006
預り金	54,208
正味財産	
前期繰越正味財産額	8,914,693
当期正味財産増減額	9,964,410

年度別団体活動規模



会計報告

2014 年度は前年度と比べ規模が 2 倍以上となりました。就労支援事業では多くの生活困窮状態にある人へ就労の機会を提供してきました。シェルターなどの施設運営を今後していきたいと考えているため、次年度以降もできるだけ経費は節約し繰越金を積み上げていく予定です。

2014 年度 Homedoor を支えてくださった企業・団体・官公庁の皆さま

（敬称略・五十音順）

株式会社 アクロス
大阪ガス 株式会社
大阪市北区役所
大阪市西成区役所
大阪市平野区役所
大阪市ボランティア活動振興基金
大阪東急 REI ホテル
大阪府岸和田子ども家庭センター
有限会社 川口
グーグル 株式会社
特定非営利活動法人 JAE
一般社団法人 水都大阪パートナーズ　コイデコ事業部
株式会社 セールスフォース・ドットコム
ソフトバンクグループ株式会社
株式会社 第三文明社
特定非営利活動法人 D×P
日本システム技術 株式会社
一般社団法人 場所文化フォーラム
浜口産業 株式会社
独立行政法人 福祉医療機構
特定非営利活動法人ふーどばんく大阪
株式会社 プラネット
特定非営利活動法人 フリーヘルプ
ホテル中央グループ
一般社団法人 ホームレス問題の授業づくり全国ネット
三井住友銀行 ボランティア基金
公益財団法人 三菱財団
ヤフー 株式会社
ユニリーバ・ジャパン（BEN&JERRY'S）　ほか多数

「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくり」へ
サポーターとしてぜひ参加してください。

Homedoor ではビジョンを達成するために、サポーター（寄付会員）制度を導入しています。1080 円 / 月から参加することができます。多くの方の協力があるからこそ、夜回りなどを継続して実施することができています。「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造づくり」に向けて、ぜひ一緒に活動しましょう。詳しくは Homedoor の HP をご覧ください。